

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 黒鯛の家)

事業所番号	0673100087		
法人名	株式会社ケアサービスつきみ		
事業所名	グループホームねずがせき		
所在地	鶴岡市鼠ヶ関字横路9-3		
自己評価作成日	平成28年6月30日	開設年月日	平成16年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールからは、日本海が一望でき、夕日の美しさを堪能する事が出来る。
利用者本位の介護と、山・海での地元食材を取り入れた手作りの食事の提供を行っており、四季折々の食事が楽しめる。
医療機関はかかりつけ医が毎月往診に来ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 28 年 7 月 27 日	評価結果決定日	平成 28 年 8 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日本海が一望できる海沿いの高台に開設されてから12年になる。事業所は、長期的に勤務する職員が多く、理念を踏まえて、一人ひとりの希望に沿った支援が実践され、利用者との表情が明るく、生き活きとしている。そして、食事の準備・会食・後片付けなどを見ていると、ホールは、会話が多く、家族的な暖かさが伝わってくる生活空間となっている。また、自慢の環境・眺望や多彩で家庭的な食事のほか、地域との様々な交流とその親密さにも、努力の跡が感じられる。管理者・職員からは利用者を大切に思う気持ちと介護への熱い思いが伝わってきて、より良いサービスの実践に向けて進もうとする向上心も感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関先、ホール内に掲げ、月1回の職員会議で唱和し、確認をし実践につなげている。	設立時に職員で作成した理念を、玄関、ホール、廊下に掲示するとともに、月例の職員会議の際には唱和し、確認し合いながら実践につなげている。職員は、支援経験が長い人が多く、理念を意識しながら支援に努めている。また、管理者はさらなる向上策についての検討意識を持っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のスーパー、魚屋さん等利用してつながりを持っている。また、地元の小学校の学校祭や、地域の春祭り、文化祭の展示物を見学、カラオケ店を利用し行ったりした。また地域の婦人会の方にボランティアで花植えや掃除をしてもらったり、タオル等の寄付を頂いたりと交流をしている。地域のバラ祭りではボランティアの協力を得て鑑賞を行った。今年度も市のチャレンジデーにも参加した。	地域の自治会にも加入し、地域との密接な「つきあい」の中で運営されている。日頃から近所で買い物をしたり、お茶を飲んだり、カラオケに行ったり、また地域のバラ祭り、チャレンジデイ、文化祭などのイベント、学校行事に参加したりしている。一方、花植えや掃除のボランティア等を受け入れたり、敷地を地域の災害避難場所としたり、職員が認知症サポーターとして活動したり、地域の中の一員としての交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症研修などを通じて勉強を重ねており、施設に来て下さるボランティアの方々との交流時に理解してもらっている。また、地域の方々の相談にも乗っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設活動、入退去状況、施設取組を報告し、意見を聞いてその都度職員会議等におろし、改善すべき点は検討しサービス向上に活かしている。	家族代表、民生委員、町内会の代表、地域包括職員・市職員・市の介護相談員を迎え、2ヶ月に1回開催している。事業所からは、活動・運営状況について報告するとともに、毎回意見交換の主たるテーマについての資料も提供しながら、様々な課題について質問や意見をいただき、サービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>利用者やその御家族の問題事例に関して市や包括に相談し、事業所の実情を話したり、協力をもらっている。月2回介護相談員の訪問を受け入れており、その都度利用者の苦情の有無や、より良い事業所にする為の助言をもらっている。また運営推進会議にも出席して頂いている。</p>	<p>支援にかかる日常的な相談のほか、市職員から運営推進会議に参加してもらうこと、市主催温海地区会議等へ参加させてもらうことを通し、協力関係を築き、連携を図っている。また、月に2回、市の介護相談員の来所を受け、状況を確認してもらいながら意見をいただいている。大いにサービス向上に役立っている。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>研修会で身体拘束ビデオを見ながら具体的な内容を学び、日々の業務の中で活かしている。帰宅願望のある利用者に対しては話題を変えたり、一緒に外に出て歩く等利用者に合わせて対応をしている。</p>	<p>職員研修を通して、日頃から身体拘束について学んでおり、職員はその弊害や対応策について理解している。まずは事業所理念に基づき、利用者の気持ちを汲み取り、そっと寄り添う介護を実践している。玄関は施錠せず、外出したい利用者には一緒に出かけるなど、寄り添いや見守りを重視し、安全の確保を図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については研修会などを通じて周知徹底し、入浴時に身体に不自然な傷、痣が無いか確認に努めている。又、利用者の表情や話し方にも注意をし、動静録に記録し職員全員が共有している。管理者は注意深く観察し、指導助言を行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内に成年後見制度について掲示(ポスターや書類)し、相談時に話し合える様にしている。市社会福祉協議会による成年後見制度に関する講演を実施したこともある。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用開始時に説明し、同意の上で契約している。利用者や御家族と面談を行い、不安や疑問点にわかりやすく答え納得して頂いている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者を交えた座談会を開き、意見、要望の声を聞き取り反映している。御家族とは面会や行事への出席時などに話をしており、アンケート・意見BOXをホーム玄関に用意し意見等の受け付けもしている。	利用者からは、月例の「すずらんの会」(座談会、お茶会)を通して、行事や食事等々について意見を伺っている。また、家族からは面会時や来所時に利用者の日ごろの様子を伝えるとともに、直接意見を伺いながらそれらを運営に反映させている。現在、提言・意見は積極的になされている。アンケート・意見BOXを玄関に置いている。また、月に2回介護相談員の来訪があり、職員や利用者が外部に意見を表せる機会が設けられている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議が毎月あり、意見や提案が出来るようになってきている。法人役員の出席する管理者会議で、それらを全て報告している。提案、意見の内容によっては、すぐに業務改善につなげている。法人役員との個人面談も行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に合わせて勤務形態を組んでいる。職員が資格取得に向かえるように職場環境を整えている。職員会議等での意見要望を取り入れ働きやすい環境の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職場内部での研修会を行い、外部での研修へも参加できるように案内を回覧している。介護福祉士実技試験免除講習など、個人で研修に行くことへも配慮されている。	年間研修計画に従って、月1回、月毎の研修担当職員を中心にして研修会を実施している。また、外部研修の案内を回覧しながら、希望を受けて外部研修に派遣するようにしている。研修があった際にはレポートを提出させ、職員の理解度を確認している。資格取得等個人の意欲に基づく研修会への参加希望に対しては、配慮をしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区のGH連絡会主催の交流会や交換実習などに参加して良い所を持ち帰り、職員会議等で報告し自施設へ反映している。	庄内地区GH連絡会主催の交流会や交換実習などに積極的に参加させ、他事業所の良い所を学ぶようにし、それを、職員会議で報告したりしながらサービス向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談し、御本人が困っている事、不安な事を聞き取り、納得して頂いて利用開始している。その情報を職員で共有し、いつでも相談出来る事を伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望を聞き取り、施設での出来る範囲をお話して、その要望等を職員が共有して、御家族の協力を得ながらサービスを開始するようにしている。面会時などに利用開始後の利用者の様子を話したり、月1回の広報で利用者の様子を伝えて信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来た時は、必要な支援を話し合い、他施設の紹介も含め、御本人にとってより良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の今までの生活や身体の状態に合わせ、寄り添う事を基本として、同じ目線になるように努めている。調理や洗濯等、職員と利用者が支え合って毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報で状態を伝え、急の時は電話連絡をして知らせている。 御家族との外出や交流を促したり、墓参りや一時帰宅、通院は出来る範囲で御家族にお願いする等御本人を支えて協力を図り関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊には常に応じるようにしている。手紙、電話の希望なども必要な支援を行っている。 入所前のかかりつけ医の利用を継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を知り、居室や席の配置等配慮し、行事等では個人の特技を活かし発表を行うなど、関わり合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、「いつでも相談に応じますから」と声かけをし、連絡があった場合は丁寧に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別性を中心に理念に沿った寄り添いを基本にしている。ゆっくりと話を聞き入れ、何を望んでいるのか、気持ちを把握するように努め、カンファレンスや申し送り時に検討して利用者本位のサービスに努めている。居室でテレビを見たりCDを聞いたり思い思いに過ごしている。	入所前から利用者本人や家族から意向を確認し、入所後も日々の寄り添いの中から本人の意向を汲み取るよう努めている。また、座談会での意見要望や、カンファレンスに先立つ意見要望については、詳しく記録し、それに基づき本人本位のサービスを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や契約の際の面談時、御家族からの聞き取りを行い、以前の利用事業所等からの情報を把握し、それをセンター方式に落とし活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員からの情報や、日々の状態で変化があれば、その都度密に情報を共有して動静録、温度版に記録をして誰が見てもわかるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題があれば随時カンファレンスを行い、御本人、御家族、必要な関係者とサービス担当者会議や電話等で話し合いの場を設け、連絡を取り合い現状に即した計画作成している。	少なくとも3か月に1回はモニタリングを、年に1回は計画の見直しを行っている。その他利用者に変化があった場合は、随時カンファレンスを行い、現状に応じた計画としている。見直しに際しては、本人や家族等の意見を聴きながら、詳しく記載された介護記録を基に、担当者や他の職員が意見を出し合いながら、現状に即した具体的なサービスとしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過を観察し、定期のケアカンファレンスを行い、変更があれば申し送りをし、ケアプランのサービス内容を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元の理容室へ行ったり、出張理容に来てもらったり、スーパーへ買い物に出かけたり、地域の祭り、小学校の学校祭見学を楽しんだりしている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への受診、往診などその時々合った医療が受けられるように、かかりつけ医等と密に連絡を取っている。特変時の受診の際には御家族に連絡を行い記録に残している。</p>	<p>原則、利用者や家族の希望するかかりつけ医を、家族の付添で受診している。利用者によっては職員が同行する場合もある。その他、地域の協力医の往診を月に1回受けることができる。受診に際しては医師に日頃の看護記録を提出し、診察の結果は関係者から聞き取って記録している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気付いたことがあった時はすぐに看護師に相談し、情報を共有している。看護師によるオンコール体制も整備している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はすぐに介護サマリーにて情報を提供している。入院中の面会時には医療者と情報交換し、御家族と相談する関係づくりを行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在看取りサービスについては提供していない。契約時に看取りに関する事業所の方針を御家族に説明し同意をもらっている。医療機関と連携を取りながら可能な限り希望に添えるように対応している。</p>	<p>体調が悪化した際には重度化指針に基づいて、家族・医療関係者と緊密な連携を図り対応している。看取りについては、現在は行っていない。利用開始に当たっては、その内容を詳しく説明し、家族の同意を得ている。環境や必要性を考慮して今後の課題と考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがあり、救急講習で救急隊員の方から指導を受けたり、職場の研修でも訓練をしている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災訓練を行い、運営推進会議を通して地域の方々に協力を得られるようお願いしている。消防署の協力で訓練をし指導も受けている。また地元庁舎で行っている津波避難訓練等にも参加をしている。	運営推進会議の委員等地域住民の協力を得ながら、年に2回、消防署の指導の下、総合訓練・避難訓練・夜間想定訓練・招集訓練などを実施している。また、市の地元庁舎で行っている津波避難訓練等にも事業所として参加し、事業所が、災害時の地域住民の避難場所となっている。食料等の備蓄もある。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の想いや希望に寄り添いながら、トイレ誘導時の尊厳を守れるような声かけの仕方、言葉使いに注意している。 内部研修や実際の場面でもプライバシーを損ねない声掛けを注意し合っている。	本人の意向や希望を汲みながら支援を行い、年長者として人格の尊重に努めている。特に、トイレや入浴に際しては配慮している。また、不適切な部分があれば、職員間でも声を掛け合い、話し合いを行って、適切な対応ができるように努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望に寄り添いながら言葉かけを工夫し、衣類やおやつ、その他にもその場面に応じた選択など自己決定できるように働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、一人一人のペースに合わせ、何をするにもその都度声かけし、利用者の意向を汲むように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は服装に気を配り身だしなみを整えて出かけるようにしている。 理容室へ行ったり、出張理容も利用している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回での座談会で利用者の声を反映している。野菜の皮むき、食器洗い拭き、テーブル拭き、配膳下膳など、利用者が出来る事を職員と一緒にしている。行事メニューや、地元の食材を取り入れ、手作りの食事の提供に努めている。	月例の座談会において利用者の希望・意見を把握しながら、利用者・職員皆で食事を楽しんでいる。三食とも、近所のスーパーや魚屋さんで地域の山海の食材を中心に購入し、それを、調理師の資格を持つ職員を核にして皆で調理し、準備し、家庭的な食事を全員で食べている。和やかな雰囲気の中で食べられ、終わりの挨拶では調理を担当した職員に感謝の言葉が述べられる。食事が楽しそうな事業所である。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミ、トロミ、ミキサー食と利用者の状態に合わせて食事を提供している。見た目も重視して、地元の食材を取り入れながら山海の幸を楽しんでいる。水分量も温度版を使って管理し、自由に飲める冷温のお茶ポットや、補水液を用意して毎日提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人でできる利用者には声かけ、見守りを行い、出来ない利用者にはブラッシング介助、ガーゼで拭取る介助等で支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	温度版とホワイトボードを活用し、一人一人の排泄パターンを確認し、夜間オムツ対応の利用者も、日中はリハビリパンツに交換し、トイレでの排泄を促している。	バイタルや排便等を記録した「温度版」と「ホワイトボード」を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛け、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者によっては実際におむつの利用回数を減らした実績がある。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便ノートによるチェックに力を入れ、朝夕の申送りにて確認している。軽運動、腹部マッサージを行い、主治医と相談し個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2つの浴室があり、1日おきに交互に使用して、ほぼ毎日入浴が出来るようにしている。隣の施設とも繋がっており、希望によりそちらでの入浴もできる。時間も希望があればその時間に入れるように支援している。	一般浴室と器械浴室を交互に使用しながら、希望者は出来るだけ希望の時間に、毎日でも入浴することが出来る。浴室からは日本海を眺めることができる。また、偶には隣接する施設の浴室を使ったりしながら、入浴を楽しめるように支援している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々個人の生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。身体の状態に合わせて低反発マットも使用している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を与薬ケースにセットする時に確認している。個人ファイルに薬用の記録用紙があり、情報を共有している。処方が変わった場合等は症状の変化を密に記録している。職員が自分なりのノートや、薬ノートを施設で作っている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を活かした役割を持ってもらい、食材切り、食器拭き等、自由にそれが出来るように支援している。演芸会や敬老会など、得意な事を披露する機会があり、練習を含めて楽しみごととなっている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者との座談会での意見を取り入れ外出先を決めたり、天気が良ければドライブ、散歩、ゲートボール、草取り、カラオケや水族館など職員と一緒にしたりと、御本人、御家族の希望で一時帰宅や御家族でホテルへ宿泊等の調整を行って思いに配慮しながら支援している	日本海が眺められるテラスで海風を感じながらお茶を楽しんだり、広い敷地を散歩したり、花づくりを楽しんだり、外気に触れる機会を多く提供している。また、買い物に出かけたり、座談会の意見を取り入れて、ドライブ・行事・祭り・水族館・カラオケに出かけたり、さらには外食出かけたり等々、家族の支援も受けながら日常的に外出支援を行っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人や御家族の希望に応じて支援している。御本人が金銭管理が出来ない場合でも、施設が立替し、外出時買い物出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや手紙を出したり、電話を掛けたりと御本人の希望によって支援している。手紙の代筆を職員がするなどの支援もしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大型窓には季節の張り絵をしたり、各居室には暖簾をつけたりと季節感に合わせている。ゆったりと座られるソファ、長い廊下で一休みできる長椅子、玄関やホールに花を飾ったり、天気の良い日はテラスに出て、お茶を飲んだり美しい夕日、海を見たりできるようにしている。	花を飾った玄関からホールに入ると、日本海の絶景を眺めることができる。また、その大きな窓から多くの光が取り込まれ、室内は明るい。壁面等は、利用者の描いた絵を飾ったり、職員と利用者が協力し季節を感じさせる飾りつけをしたり、居心地良く演出されている。また、ゆったりとした音楽の中で、利用者はテーブルやソファで思い思いの過ごし方をしている。ゆったりした時間が流れている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファを利用して一人になったり、一緒に過ごしてTVを見たりできるようにしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使っていたタンスを使用したり、思い出のある人形や御家族の写真、お孫さんの作品を飾ったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者が使い慣れたタンスやテレビを持ち込みながら、家族の写真や人形等のなじみのもので部屋を飾っている。片付け方もそれぞれで、利用者の生活感が感じられる居室となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで居室内の給湯器も火傷しないよう温度設定してある。冬はホールにカーペット状の床暖房も設置し、そのうえでTVを見たり自由に過ごせるようにしている。配膳下膳を毎日の仕事にするなど、その人その人に合った支援が出来るよう工夫している。			